

意見が示された範囲	委員から示された意見
計画全般	◆区は、基本計画にどれだけの拘束性を持たせているのか。予算、政策をつくるときに、基本計画を踏まえているかをチェックし、さらに行政評価をしているのか、そうした計画でないと区政に機能しないのではないか。【中村委員】
	◆中間層が分断をして両極化しており、その結果、地域が分断されるということにつながっていて、どのように共同体をつくり出すのか、区民一人一人が自立して参加をし、地域にどう残していくのかということを考えていく。言わばバージョンアップした共同体をどう構築するのかということが非常に重要である。【涌井委員】
	◆今回の議論がバックキャストで未来から見ていった結果で、この大綱が出てきていると思うが、今の計画の延長のようなところがある。DX等々を入れている、ネットワークという言葉が外れているという違いもあり、重点政策でも文化の創造と知のネットワークづくりは今回入っておらず、現行計画と比較をしてみてもよいのではないかと。【長山委員】
	◆世界的にも中産階級が痩せてきて二極化しており、世田谷区は中産階級が多く、今はその中産階級が支えて今の地域環境などがあるが、中産階級が痩せていくと、世田谷の今の状況がどれだけ守れるのか。子どもや若者が成人し、社会で活躍する20年後、30年後に今の治安状況、環境状態を守れるのか、今の福祉厚生水準を守れるのか。おそらく下っていく中で、今の状況を維持するのであれば、それを何で補うかを意識する必要がある、よほど知恵を使わないと、今のレベルを維持できないのではないかと。【青柳委員】
	◆人口100万近くなるような大きなコミュニティを、どういうふうにするか21世紀の中盤に向けてつくっていき、住んでいる人にとって住みやすいだけでなく、若い世代が夢を描けるようなコミュニティになっていくのかという全体の構造が浮かびにくい。【汐見委員】
	◆これから何でも区が公でやるという話ではなく、地域住民がどうやって自分事として自分の周りの課題を解決するかであり、もう一度、公と私との間の共をどうやって再構築するか、地域共同体をどうつくるのか非常に重要である。インクルーシブな形で地域共同体をつくる、磨き上げることが一番優先されるのではないかと。【涌井委員】
全体構成	◆全体構成について、5つに分かれているが、区民全員に届くメッセージとして基本方針、具体的に取り組むべき重点課題、計画の立案から実行までの取組の指針、姿勢、決意表明といった3部構成ぐらいが分かりやすいのではないかと。【羽毛田委員】
	◆基本方針、計画全体を貫く考え方が、この基本計画の基本的な考え方に当たり、計画の対象が重点政策に当たり、いかに計画を進めるかというhow toが計画の推進とマネジメント指針ということだと思っているので、その3部構成で整理してはどうか。【中村委員】
	◆計画策定にあたっての考え方は計画のつくり方、マネジメント指針や計画の推進は計画の動かし方で、つくり方と動かし方としてまとめるなど分かりやすいことが大事である。【小林委員】
	◆全体構成については層が分かれすぎて複雑で分かりにくいというのは共通に感じているところと思うので、全体の構成としては3層程度で考えていくということで整理したい。【大杉会長】
	◆项目的に重なっているところも多く、3段構成にすることには賛成である。【鈴木委員】

意見が示された範囲	委員から示された意見
基本方針	<p>◆基本方針の「持続可能な未来の確保」について、これまでの議論の内容を反映しており賛同するが、この持続可能な未来の確保と並立する形で、都市としての世田谷の魅力を積極的に高め、より選択される都市になるといった積極的なメッセージを基本方針のもう1つの柱にしてはどうか。【安藤委員】</p>
	<p>◆これまで議論では、子育て、子ども、家族といったところへスポットがあたっていたが、子どもを育てていない夫婦や独身の方も非常に増えていて、多様性がより深まっている。こうしたスポットがやや当たりにくい人たちは世田谷に魅力を感じて住んでくれる方たちでもあり、そうした方たちにこたえるためにもハードの部分と区民検討会議でも出ていた文化、緑といったものも含めて町全体の魅力を高めていくことを方針として掲げるとよい。【安藤委員】</p>
	<p>◆基本方針の一つ加えて、「あらゆる世代が住み続けたい世田谷をともにつくる」というコンセプトの下で全てを整理してはどうか。これと持続可能性の確保の2つで包含できるのではないか。【中村委員】</p>
	<p>◆委員の皆さんが言ってきたものは全てこの中に入っているのだから、何を一番上に持ってくるかというのが論点ではないか。持続可能な未来でいいのか、参加と協働も目標と手段という形で一番上に持ってくるのがいいのか、環境がいいのか、ソフト的なものを持ってくるのか、どれを頭に持ってきて包括概念にするのか合意する必要がある。【鈴木委員】</p>
	<p>◆個別計画ではできないことを基本計画で書くべきで、不安定感、不信感、希望が本当に持てないこの社会の中で、一番上のところに何を持ってくるか考えると、平和、人権、共生など全てのところを貫いていくようなものが一番大事ではないか。参加と協働は一つの方法論であり、それによりどんな社会を実現するか、みんなが願う暮らしの中での目標を一言で表せるとよい。【森田委員】</p>
	<p>◆目指すところは議論する必要があるが、持続可能性は、ほかに無理を押しつけて、犠牲を出して、自分だけ得をすると続かない。みんなで助け合って、支え合っていくということが持続可能性なので、それが分かる基本方針とするべきで、人や自然が支え合って、生き生きと住み続けられる世田谷がよいのではないか。【小林委員】</p>
	<p>◆基本方針に、今、この場で委員の方が発言した世田谷の今抱えている問題意識や今後目指していく明るい未来、そういったものをここまでの議論をうまく集約して、区民に読んでもらうという目線で訴えかける文章をぜひ入れてほしい。【安藤委員】</p>
目標	<p>◆目標がないということに違和感があり、基本方針に持続可能な未来をつくとあるが、抽象的であり、持続可能なコミュニティや持続可能な経済、自然環境、インフラ、それがどんなものなのかを書くべき。基本計画でしか書けない目標像を書くべきであり、たたき台は目標、未来像、目指すところが抜けている。【小林委員】</p>
	<p>◆図を見るときれいに整理されていると感じるが、何を狙っているのか、どの様な目標により、共有できる都市像を描くのがよく分からない【涌井委員】</p>
	<p>◆バックキャストの計画というのであれば、具体的に目指す像を書き、数値的な指標を書く必要がある、中身、コンテンツが重要ではないか。【小林委員】</p>

意見が示された範囲	委員から示された意見
計画全体貫く考え方	<p>◆9ページで計画全体を貫く考え方の基軸となる参加と協働を表しているが、基本方針があり、計画全体を貫く考え方があり、さらにその考え方の基軸があつて分かりにくいいため不要ではないか。【中村委員】</p> <p>◆非常時の常態化、言わば災害は常態化しており、これから考えていかなければいけない。【涌井委員】</p>
参加と協働	<p>◆参加と協働が第一に掲げられている点は重要で納得感があるが、町会加入率が年々減っているという明らかな課題がある中、さらなる促進という認識でよいのか。参加する時間、意欲、活躍できる素養があり、何らかの見返りや達成感があれば、参加するという人は多いのではと思っており、そうした環境がないから、徐々にコミュニティが機能不全に陥っている現状があるのではないかと。たたき台では主体的な参加など強い言い方で求められていると感じており、もう少し門戸を広げて、柔軟で多様な参加の仕方を歓迎するといった打ち出し方がいいのではないかと。【羽毛田委員】</p> <p>◆ふるさと納税は、どういった基金があつて、どのような団体にお金が使われてということ自分で調べて、この使い道にしようと思つて自分で考えて指定するが、こうしたことも重要な参加にあたると思う。【羽毛田委員】</p> <p>◆若者などが見たときに、自分事として参加したくなるような見え方は重要で、参加を基にコミュニティ形成を行っていくのであれば、そこに引き込む工夫が必要である。【尾中委員】</p> <p>◆既に地域で行動したり、日々考えたりしている方たちはたくさんいるので、そうした方たちを巻き込めるような参加と協働の窓口があるとういのではないかと。【下川委員】</p>
重点政策	<p>◆外国人のカップルが婚姻届を出すにあつて、手順等どこに聞けばいいかわからず、英語での対応を含めて困っているということがあり、これから多様性の尊重を考える中では大事なポイントである。【下川委員】</p> <p>◆子ども・若者の声をしっかりと聞き政策に反映するとあるが、大人を前にして意見するのは言いにくいということもあると思うので、SNSやウェブを活用したアンケートなどのほうが、個人的な意見を言いやすい場がつかれるのではないかと。【佐伯委員】</p> <p>◆児童館や青少年交流センターを私自身活用した経験がなく、少しずれていると感じる。プール教室やお祭りなどが区民の方と関われる機会だったので、放課後や土日にスポーツ教室を開いて開放するといった政策のほうが子どもの豊かな成長や体験につながるのではないかと。【佐伯委員】</p> <p>◆三軒茶屋や下北沢、二子玉川と具体的に挙がっているが、駒沢、桜新町、用賀など区にはいろいろなすてきな住みたい地域があり、いろいろな地域に目を向けて魅力的な街づくりを考えてもいいのではないかと。【佐伯委員】</p> <p>◆重点政策には、福祉を通じて環境をよくする、環境がよくなると福祉もよくなるなど、個別計画では書けないことを書くべきだと思うが、個別計画でできることばかり書いてあると感じており、何を書くべきかを議論してほしい。【小林委員】</p> <p>◆一つ一つのまとまりはキーワード的なものもありこのままでいいと思うが、もう少しすっきりと簡潔に、より抽象的に書いたほうが読みやすいのではないかと。【安藤委員】</p>

意見が示された範囲	委員から示された意見
重点政策	◆重点政策が個別計画では対応できないが、横断的に取り組むと解ける問題があって、これをやらないと基本計画自体が実行できないという政策であるとして、それに値するものが何なのかは議論が必要ではないか。【小林委員】
	◆ワクワク感が悪いとは言わないが、大事であるということであれば、この政策がワクワク感に通じるんだというものを書くべき。【小林委員】
	◆基本方針の持続可能な未来の確保と、重点政策のワクワク感が合っていない。地球環境は危機で、産業、人口問題等様々な問題がある中、持続可能な未来を確保するという大きな方針があり、水準として区でここまでやりますというものがあり、その上で、さらに世田谷はもっと未来に向けてというところでワクワク感、という2段階なのだと思う。【江原委員】
	◆ワクワク感だけでは駄目で、ワクワク感を何を狙うのか、地域の共同体をどうやって成熟させるのか、といった目的を明確にしなくてはいけない。高齢者の問題にしても、ハンデキャッパーの人たちについても、どうやって相互扶助するのか、どうやって街づくりに参画していくのか。入り口はワクワク感でもよいが、健全な種をどうやって飛ばすかが重要で、公と私に対立するのではなくて、改めて自主的な共を再構築できるような地域社会をどうつくるかが非常に重要である。【涌井委員】
	◆ワクワクしたり、出会いがあったりという議論は確かにあったので、それを基にして、ワクワク感が出てきていると理解はしているが、社会的弱者が取り残されることのないようワクワクと弱者保護の両方の視点が必要ではないか。【鈴木委員】
	◆持続可能なコミュニティにどう重点施策がかみ合っているのかという構造が見えにくい。住む人がどのように生産活動をし、どのように消費活動をするかがコミュニティが持続するベースであるが、食糧自給率が先進国の中で最も低い中で、環境問題などの様々な影響を受けるのが食糧であり、持続可能なコミュニティをつくっていくには、農業を再評価しないと残れない。そして消費活動に関係するのが社会インフラで、エネルギーをどのように確保していくのか。世田谷区で消費する電力は、半分以上クリーンエネルギーでやっていく、そういうコミュニティを目指すといったこと。一番深刻になっていく少子高齢化の問題がある中で、出産、育児という問題を解決し、高齢者も生き生きしているコミュニティをつくる。一つ一つの重点政策がこういう形で新たなコミュニティづくりにつながっていて、そのための6つの重点政策であるという構造が見えると納得されるのではないか。【汐見委員】
	◆参加と協働でしかできないことを環境分野で考えると、グリーンインフラである。街づくりなどと組み合わせないと達成できないので、グリーンインフラは大事であり、重点政策にあってよい。環境だけではできないことを議論し、目標に向かって、みんなが参加しないとできない分野横断的な対策が必要なものを議論してほしい。【小林委員】
	◆子どもたちに残せるものは何かと言えば、やはり教育だと思う。進行している教育格差を区としてできるだけカバーし、教育の世田谷区となれば、本当にすばらしい地域になるので、教育の重要性についてぜひ基本計画の中に入れてほしい。【青柳委員】